

2030年の社会と子どもたちの未来に向けて

平成29年3月。次期学習指導要領が公示されました。この学習指導要領は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年度から全面実施され、その後、2030年頃まで、全国の学校の教育指針とされるものです。ここでは、子どもたちが生きる「2030年の社会」を想定したうえで、求められる資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という三つの柱で整理しています。

子どもたちが生きる2030年とはどんな社会なのでしょう。

日本では少子高齢化社会がさらに進行し、65歳以上の割合が総人口の3割に達する一方で、生産年齢人口は2010年に比べて約2割減ると見込まれています。また、人工知能の進化により、労働の自動化が進み、子どもたちの約65%が、今は存在していない職業に就くという予想（ニューヨーク市立大学大学院教授 キャシー・デビットソン氏）もなされています。情報技術の飛躍的な進化が経済や文化のグローバル化を加速させる中で、一つの出来事が広範囲かつ複雑に伝搬し、先を見通すことが益々困難になってきています。

そんな時代を迎えるにあたり、北立誠小学校では、学校教育目標「やる気いっぱい やさしさいっぱい 夢いっぱい」の教育実践を通して育成をめざしてきた「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の意義を変化する社会の文脈の中で捉え直し、しっかり取り組んでいきたいと思えます。

本年度は、「学びの十か条」による学習指導と生徒指導の充実、「授業づくり十か条」による授業の質の向上などこれまでから注力してきた取組に加え、修学旅行におけるキャリア教育の実施、6年生における英語の教科担任制、プログラミング教育の導入、道徳の教化科に向けた授業実践など、2030年の社会を見据えた取組を進めてまいります。

子どもたちが身近な地域を含めた社会とのつながりの中で学び、自らの人生や社会をよりよくかえていく実感が持てる取組を進めるためにも、保護者・地域の皆様をはじめ様々な組織・団体と連携・協働していくことがますます重要になってくると考えます。

本年度も、本校の教育活動にご理解とご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成29年4月1日

校長 黒田 雅夫